

本号の主な内容

1. 「共に働き共に子育て」統計に見る若者の共働き志向
2. 妻とよく話す夫は「老後の楽しみや計画」がある
～男性のWLBに関する意識調査から～
3. Dr. 伊藤のすこやかコラム：「子供の事故」
4. 2011年度調査結果返却に関するお詫び

皆さん大型連休いかがお過ごしですか？

前半はぽかぽか陽気でお出かけ日和でしたね。

2日連続で真夏日の地域も多かったとか。

後半は天気が崩れるようです。

あいにくのお天気でも子供と楽しめるスポットを今から収集しているところです。

さて今月の話題です。

■1. 「共に働き共に子育て」統計に見る若者の共働き志向■

4月、電車に乗ると、新入社員らしき若者の姿をよく見かけます。

そんな若者たちの意識調査からWLBに関する話題をご紹介します。

国立人口問題・社会保障研究所「出生動向調査」

『希望の結婚像—どんな結婚を求めているのか』から。

ここでは、ライフコースを

専業主婦コース、再就職コース、両立コース、DINKSコース、非婚就業コース

の5つに分け、女性の理想と現実(予定)、

男性が結婚する女性に望むライフコースを聞いています。

それによると、1987年には33.6%の独身女性が

専業主婦コースを理想としていたのに対し

2010年には19.7%まで減少。

対して両立コース・再就職コースの合計は

65.8%にまで増加しています。

また面白いのが独身男性の意識。

パートナーに専業主婦コースを望む男性は

37.9% (1987年) から 10.9% (2010年) にまで減少したのに対し、

両立コース・再就職コースを望む男性は

71.8% (2010年) にまで上昇しています。

従来の性役割意識(男は仕事、女は家庭という考え方)にとらわれず、
夫婦が共に助け合って、家庭と仕事を両立させる若者が増えると嬉しいですね。

国立人口問題・社会保障研究所「第14回出生動向調査」 ↓

→ http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14_s/chapter3.html#32a

■2. 妻とよく話す夫は「老後の楽しみや計画」がある

～男性にとってのWLBに関する意識調査から■

男女共同参画局で興味深い調査を行っていました。

男性の性役割意識に着目して、日常生活の意識・行動との関係を見ています。

(概要はこちら) → http://www.gender.go.jp/research/dansei_ishiki/pdf/gaiyou.pdf

それによると、妻とよく話す男性は、

「何もやる気がしない」「仕事を辞めたいと思ったことがある」

という回答が少なく、

「老後の楽しみや計画がある」との回答が多いとのこと。

妻とよく話すこと、つまり夫婦間コミュニケーションが多いと、

仕事や老後への意欲が増す可能性がある、ということでしょう。

「夫婦のコミュニケーションは大事」とよく言われますが、

夫婦関係のためだけではなく、

自分や仕事のためにも、パートナーとのコミュニケーションが

大事になってくる可能性があるのですね。

■3. Dr. 伊藤のすこやかコラム：子供の事故■

いよいよゴールデンウィークが始まりました。

行楽地へお出かけになるご家族も多いことと思います。

楽しさいっぱいのこの時期ですが、立て続けに起こる重大事故の報道を見るといたたまれない気持ちになります。

歩道を歩いていて暴走車輛の犠牲になるというのは常識的には起こらないはずのことで実に痛ましいです。しかし日常生活のあらゆるところに予想を超えた危険があるのだ、ということを感じさせる出来事でもあると思います。

子どもの死亡原因に関する統計を見ると、最も多いのは「不慮の事故」であり、その内訳は「交通事故死」が半数を占め、そこに「溺水」「転落」「窒息」などが続きます。

警視庁が発表している交通事故に関する資料を見ると、次のようなことが分かります。

※歩行中の死傷者数は、高齢者に次いで子どもの犠牲が多く、年間1万2～3千人。

※子どもの歩行中の事故原因、最多は「飛び出し」

※自転車の死傷者数は、子どもが毎年3万人弱犠牲になっている。

6歳未満の幼児を乗せての事故は年間1000～2000件。

※自転車の死傷事故では、6歳未満の幼児は40%以上が頭部を損傷している。

(他の年齢層では10%程度)

※チャイルドシートを使用しない場合、適切に使用した場合に比べて死亡確率は約4倍

※夜間は昼間に比べて死亡事故発生が約3倍

周囲の安全確認がいかに大事かを繰り返しお子さんに伝える、自転車に乗る時は大人も子どももヘルメットを着用する、チャイルドシートは必ず正しく使用する、夕方以降の不要な外出はしない、など小さなことから地道に安全対策を行っていくことが大事です。

今回は交通事故を取り上げましたが、次回は家の中に潜む子どもの事故について取り上げる予定です。

■4. 2011 年度調査結果返却に関するお詫び■

先日ご協力いただいた方にお送り致しました

2011年度の調査結果の一部に誤りがありました。
一部の方におかれましては、再三の送付となり、
大変お手数とご迷惑をおかけいたしました。
深くお詫び申し上げます。
今後このようなことがないように
事務局一同、さらなる配慮をして参ります。
何卒どうぞよろしくお願い致します。

.....
■次号（12号）の予定■

- 1 ワーク・ライフ・バランス事情
2. 小児科医のコラム
3. その他

5月下旬ごろの配信予定です、どうぞお楽しみに♪



★本メールマガジンについて
本メールマガジンは、調査前登録ハガキにご記入くださいました
メールアドレスに東京大学 WLB と健康調査 事務局がお送りしているものです。
メールアドレス・住所変更、配信停止のご希望などございましたら、
wlb-project@umin.ac.jp もしくは fax: 03-5841-3392 まで
ご連絡いただければ幸いです。
(wlb-project-ml@umin.ac.jp は返信不可
となっておりますのでご了承ください)

★発行元
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野
研究代表者：准教授 島津明人
事務局：島田恭子
Tel：03-5841-3522（精神保健学分野）
Fax：03-5841-3392（精神保健学分野）
E-mail：wlb-project@umin.ac.jp
URL：http://wlb.umin.jp/

